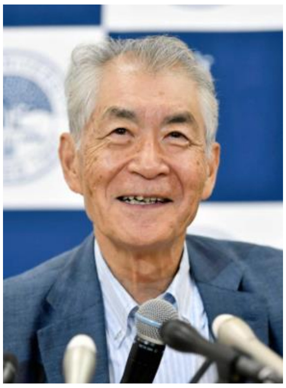
正智深谷高等学校 特別コラム

『Mind Charging』

第 222 回　　発行：入試広報室　発行日：令和 3 年 2 月 26 日

本庶 佑の名言



偶然を見逃さないことも、科学研究では大切です。

科学研究におけるわかりやすい成果とは、おそらく『発見すること』だと思います。そういう意味では科学研究の分野に限らず“偶然”の大切さは非常によくわかります。スポーツの世界にも身を置いている私は、スポーツにも共通すると感じました。

これは以前から気になっていることなのですが、選手時代も指導者になってからも、良いプレーをした選手を褒めた時に、『今のプレーはまぐれです』という言葉が返ってくることがほとんどということです。そのやり取りをするたびに『まぐれだったとしても自分がやった（できた）ことなのに･･･』と思います。競技や控えめな日本人の『文化』という意味で謙遜しているだけなら問題ないと思いますが、本当にその程度にしか自分のプレーを認識していないのであれば非常にもったいないことですし、『自信がないのかな？』と感じます。結果や競技レベル云々に関係なく、自分が取り組んでいるという事実そのものに対しては自信を持つべきだと思いますので、そういった姿勢は非常に“もったいない”ことだと思ってしまいます。

このコラムで何度か述べてきたことですが、私は『自分自身に期待する』という姿勢が重要だと思っています。ダメだった時のショックや努力が無駄になるような気になるという人もいるかもしれませんが、それは“もうダメなんじゃないか”と自分の可能性を諦めようとしている自分へのショックではないでしょうか。そういう意味では自分への期待が“足りない”のだと思います。そうは言ってもダメだった瞬間はショックを受けると思います。『君は期待外れだ』と自分に不合格通知をしても、誰も自分の代わりはしてくれません。だからこそ『次こそはクリアできるはずだ！』と自分に期待ができた時、人はまたひとつ強くなれると思います。まぐれであっても『一度はできたんだから』と思って再挑戦すれば、今度こそ本当に“狙い通り”で成功する可能性を高められる気がします。誰に褒められるよりも“できた！”と実感した瞬間の方が感動が大きいはずです。自分を飛躍させる偶然に出会うため、自分のアンテナを常に高くしておきましょう！（編集委員：入試広報室　鈴木）

本庶 佑（ほんじょ たすく、1942 年〈昭和 17 年〉1 月 27 日 － ）は、日本の医師、医学者（医化学・分子免疫学）。学位は医学博士（京都大学・1975 年）。京都大学名誉教授・高等研究院副研究院長・特別教授、京都大学がん免疫総合研究センター初代センター長、静岡県公立大学法人顧問、ふじのくに地域医療支援センター理事長、公益財団法人神戸医療産業都市推進機構理事長、お茶の水女子大学学長特別招聘教授。日本学士院会員、文化功労者、文化勲章受章者。京都市生まれ、山口県宇部市育ち。（Wikipedia 参照）